

兼松コムニケーションス 法人向け携帯電話事業強化

兼松コムニケーション（KCS、東京都新宿区、長谷川久也社長）は法人向け携帯電話（モバール）事業を強化し、本格展開を始める。

単純な通話手段としての携帯電話端末から、企業のコミュニケーションを交差していくモバイル関連のグループになることを目指しており、法人営業本部副部長兼営業第一部長西牧浩二氏は「企業のモバイルに関するすべての窓口になり、業務改善も含めた提案をしていく」と意気込む。

同社はNTTドコモの携帯電話をはじめ、KDDI（au）、ソフトバンクモバール（au）、ソフトバンクモバール（au）サービス「KCS Motion」（KCSモバール）をWeb上で一括して行うことができ、個人情報保護の観点からセキュア電話帳（長）と強調する。

理や請求案分、発注管理など付加価値サービスも拡充しており、個人情報保護の観点からセキュア電話帳（長）と強調する。

キャリア主導からユーザー主導になる」（西牧副部長）と強調する。

「これからは端末となり、「これからはキャリア主導からユーザー主導になる」（西牧副部長）と強調する。

「これからは端末となり、「これからはキャリア主導からユーザー主導になる」（西牧副部長）と強調する。



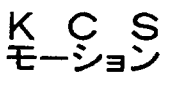
西牧 副本部長

キャリアの代理店として営業しているが、中でも法人向け事業にはいち早く取り組んだ。他社に先駆け、キャリアが求める端末管理機能を提供し、企業に求められる端末管理機能を網羅したことで、契約数を伸ばしている。

「KCS Motion」は既に国内で30社以上、16万回線の契約がある。組織体系に合わせた請求案分のほか、複数キャリアが混在するものに合わせた管理機能を提供しているのはKCSだけだ」と話す。

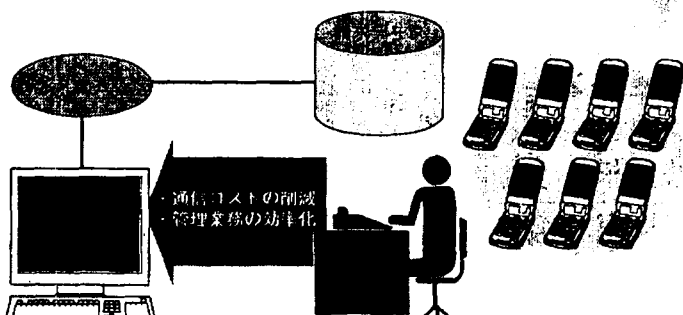
企業で少しずつ導入が始まっているスマートフォンなど、従来のスマートフォンなどと連携したシステムを開発を進めていく。ニユーを拡充していく」と方向性を示す。

今後は、モバイル全般の課題解決の窓口になっている「MI（モバイル・インテグレーション）」という新たなチャネルの確立に向け提案を加速させる構えだ。



回線管理や請求案分を簡単に 契約順調に伸ばす

KCS Motionサービスのイメージ図



「これを受けて、KCS Motionを3年間で40万回線まで拡大させる考えで、西牧副部長は「20社のSIやメーカーのパートナー企業との連携を強化し、サービスやソリューションメ

（出所：KCS）
「これを受けて、KCS Motionを3年間で40万回線まで拡大させる考えで、西牧副部長は「20社のSIやメーカーのパートナー企業との連携を強化し、サービスやソリューションメ